



**PTMC**  
matchday program



2013  
8.15(Thu)

**VOL.04** 第37回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 準決勝

# 真の大学日本一へ



ゴミは各自で  
お持ち帰りください。

好プレーに  
**CLAP**



発行：関西学生サッカー連盟  
TEL 06-6268-6400  
WEB <http://www.jufa-kansai.jp/>

# Match Preview 試合の見どころ

長居スタジアム

15:30 KICKOFF

Reported by 藤田真則(読売新聞運動部)

福岡大学

VS

流通経済大学

福岡大は優勝した2009年以来、流通経済大も頂点に立った2007年以来の決勝進出を目指す。

福岡大は2回戦、準々決勝ともに押し込まれる展開だったが、GK16、藤嶋栄介(4年)とDF陣が踏ん張り、カウンターにつなげてきた。「しんどい試合を勝つのが福岡大の伝統」と乾真寛監督。準決勝でも粘り強い守りから攻撃に移るスタイルは変わらない。鍵を握るのはFW10、山崎凌吾(3年)。高さと速さを兼ね備えたストライカーが先制点を奪えれば試合を優位に運べる。

対する流通経済大の中野雄二監督は「福岡大はロングボールを入れてDFラインを下げさせてくる。そこでずるずる引かないようにしたい」と話す。前線から最終ラインまでをコンパクトに保って素早くプレスをかけ、一気にゴールへ迎えれば決定機は増える。期待はここまで3得点のMF20、江坂任(3年)。決勝に進めば大会得点王に輝く可能性も十分だ。

長居スタジアム

18:00 KICKOFF

Reported by 関西学連

明治大学

VS

鹿屋体育大学

昨年、インカレで初めてベスト4に進みながら早稲田大に0-5と完敗した鹿屋体育大が、今度は総理大臣杯でもベスト4に勝ち進み、同じ関東勢の古豪・明治大に雪辱戦を挑む。

明治大は大阪体育大に一昨年のPK負けの雪辱を果たして、関東予選一位の貫録をのぞかせ、第58回インカレ(2009年)に次ぎ、今大会の初優勝を狙う。「鹿屋はいいチーム。センターバックからのビルトアップ、ボランチの組み立て、両サイドのタテの突進力は凄い」と、明治大・神川明彦監督は鹿屋体育大の総合力に警戒感を漂わせる。

一方の鹿屋体育大は「何と言っても相手は関東の古豪。ディフェンスを基本に置かないと。攻撃では相手のディフェンスの背後、GKとの間を突ければ」(青木竜監督)という。両チームとも総合力のチーム。攻撃、守備ともにどここといって欠点はないし、どこからでも攻撃の糸口を作り出し、得点に結びつける力を持っている。中盤の先手争いが熾烈を極めるが、ここで先手を取っても、最後のDFラインは、また両チームとも固い。やはり見どころは中盤の激しい攻防だろう。

★準幹事Presents

第37回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント メッセージ企画

トモニタタカオウ ～あなたの想いを選手に届けよう～

監督・選手のメッセージ企画と同じように

メッセージを書いて写真を撮ろう！！

撮った写真は一般ゲートと選手入場口に掲示します！

応援メッセージを書いて選手と共に戦いましょう！！



一般ゲートにてブースをご用意しています！！

メッセージを専用用紙に書いていただき

写真を撮らせていただきます

一般ゲートにて皆様のお越しをお待ちしております！！

好プレーには拍手を!!! CLAP!!

# Match Review Result & Report

Reported by 関西学連

## 鹿屋体育大学

### vs

## 中京大学

高温炎天下の中、白熱した激しい競り合いは、鹿屋体育大がPKで得たトラの子の1点を守り切って中京大を退け、ベスト4の座に進んだ。鹿屋体育大は昨年のインカレに続いて総理大臣杯でもベスト4を射止めた。中京大は昨年に続きベスト8止まり。

両チームの天地を分けた得点は、後半出だしの48分。鹿屋体育大はチャンスメーカー、MF14、小谷健悟(3年)が右サイドをきれこみ、それを阻止しようとした中京大のCB6、須崎恭平(4年)が反則を取られたもの。鹿屋体育大の攻撃の切り札の突進、中京大は止めねばならない、仕方のないところだった。ゲームはスタートから白熱した。鹿屋体育大はバランスのいい攻守を展開した。DF4、代田敦資(4年)DF5、坂田良太(4年)の2枚のセンターバックを守りの軸にして、ポランチが攻撃の組み立ての起点、両サイドのMF13、坂本翔(3年)MF14、小谷が走って再三、得点機を作り出した。

一方の中京大は3-4-3のシフトで、中盤のプレーヤーが攻守にそれぞれ参加して常に数的優位を保とうという作戦が、このゲームでも機能した。なかでもFW11、清水貴文(3年)FW9、加藤翼(2年)FW10、南部建造(3年)のFWトリオは、初戦の2回戦、早稲田大戦でも無得点に終わっているだけに、得点への意欲をむき出しにしたが、執念も実らなかった。両チームが互いに持ち味を生かし、内容の濃い攻防だっただけに、PK一発で勝敗が分かれた現実には、ゲームとはいえ厳しかった。

2013年8月13日(火) 15:30キックオフ  
会場/長居第2陸上競技場 天候/晴 入場者数/284人

鹿屋体育大	1	0-0 1-0	0	中京大
48分 坂田良太		得点 (アシスト)		



Reported by 関西学連

## 明治大学

### vs

## 大阪体育大学

関東地区予選1位の実績を引っ提げて、今大会2回戦、金沢星稜大に3-0で快勝した明治大が、一昨年の総理大臣杯でPK戦の末、苦汁を飲まされた大阪体育大を5-0の大差で一蹴、準決勝にコマを進めた。

ゲームの帰趨を決めたのは、明治大の早い段階での連発だった。まず3分、明治大は右CKをDF3、山越康平(2年)がヘッドで叩き込み、16分には右サイドからのFKをFW8、和泉竜司(2年)がつかないでMF7、梅内和磨(4年)が決め2点目、24分、今度はPKでDF5、小川大貴(4年)が3点目。明治大は立ち上がりの24分間で安全圏に飛び込んだ感があった。

大阪体育大はDFの軸、センターバックの坂本修佑(3年)中盤の攻守の要、ポランチの後藤紅介(1年)を故障で欠いて攻守の調整不足があったとはいえ、集中力の欠如は明らかで、明治大に見事にその間隙を突かれてしまった。それにしても明治大の速攻は鮮やかで、ポランチの攻守の構成力、MF10、矢田旭(4年)FW8、和泉の奔放な動きと展開、つなぎは大阪体育大の攻守を後手に追い込んだ。後半になっても明治大は手を緩めることなく、加点して大阪体育大を圧倒した。

大阪体育大はなんとか得点源のエースFW9、伊佐耕平(4年)FW10、澤上竜二(2年)につないで一矢を報いる作戦を貫こうとしたが、明治大中盤の激しいチェック、DF3、山越、DF4、小出悠太(1年)の両センターバックを軸とした守りに、完璧に封じ込まれてしまった。

2013年8月13日(火) 18:00キックオフ  
会場/長居第2陸上競技場 天候/晴 入場者数/584人

明治大	5	3-0 2-0	0	大阪体育大
3分 山越康平(差波優人)	得点 (アシスト)			
16分 梅内和磨(和泉竜司)				
24分 小川大貴				
75分 三橋隼人				
90+4分 矢島倫太郎				



# Match Review Result & Report

Reported by 藤田真則 (読売新聞運動部)

## 関西学院大学

vs

## 福岡大学

PK戦までもつれ込んだ熱戦を制したのは福岡大だった。とはいえ、試合内容では、関西学院大が勝っていてもおかしくはなかった。

福岡大はFW10、山崎凌吾(3年)を1トップに置く3-6-1の布陣で臨んだが、実際には両サイドのMFが最終ラインまで下がる5バック。対する関西学院大は2回戦の慶應義塾大戦で2得点を挙げたFW13、呉屋大翔(2年)が1トップの4-2-3-1。狙いは両チームとも明確で、福岡大はカウンターを狙ってロングボールを前線に放り込むシンプルなサッカー。関西学院大は両サイドから仕掛けて相手が釣り出されたところで中央を使うなど、ボールを保持しながらゴールに迫った。

中盤を支配したのは関西学院大だったが、先制したのは福岡大。左サイドからのクロスが遠いサイドに詰めていた山崎の前に流れ、これを落ち着いて決めて1点リードで折り返す。だが、福岡大の乾真寛監督が「このまま終わるとは思っていなかった」と予想したように試合は後半に動く。関西学院大が攻撃の圧力を高めて迎えた49分、左サイドのFKからDF6、沓掛勇太(4年)がシュート。福岡大GK16、藤嶋栄介(4年)がはじいたところをDF2、福森直也(3年)が押し込み、追いつく。このまま関西学院大が流れを引き寄せるかと思われたが、福岡大は2分後、前がかりになった相手DFの裏に山崎が抜け出してシュート。これが豪快に決まって再びリード。だが、関西学院大もさらにギアを上げ、62分に呉屋が相手DF裏に抜けて技ありの同点ゴール。関西学院大はその後も決定機を作るが得点には至らず、延長戦も福岡大の堅守を崩しきれなかった。

PK戦ではユニバーシアード日本代表GKの藤嶋が存在感を発揮。先に味方がシュートを失敗したが、それを取り返すように関西学院大の2人目と7人目を止めた。1回戦の札幌大戦でPK戦に笑った関西学院大は準々決勝ではPK戦に泣いた。

2013年8月13日(火) 15:30キックオフ  
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/650人

関西学院大	2	0-1 2-1 0 EXT 0 5 PK 6	2	福岡大
49分 福森直也(沓掛勇太)		得点		35分 山崎凌吾(武内大)
62分 呉屋大翔(関皓平)		(アシスト)		51分 山崎凌吾



Reported by 藤田真則 (読売新聞運動部)

## 流通経済大学

vs

## 関西大学

前半のペースをつかんだのは関西大。MF10、和田篤紀(3年)を起点に長短のパスをうまく回してボールを保持し、流通経済大ゴールに迫った。

一方、流通経済大は球際で厳しくチャージし、ボールを奪うと素早く縦パスを出して攻撃のスイッチを入れた。

関西大としては前半のうちに1点でも取れていれば、完全に主導権を握っていたらう。前半に放ったシュートは10本。だが、フィニッシュの精度を欠いてゴールネットを揺らすことはできなかった。対する流通経済大もシュート3本で、互いに無得点で試合を折り返した。

攻守に見応えのある一戦は意外な形で試合が動く。55分、関西大のDF23、寺岡真弘(4年)が不用意なプレーでレッドカードを受けて一発退場となり、流通経済大が押し込む時間が長くなっていく。そうした中、流通経済大の右サイドからのクロスがペナルティエリア内で相手DFの腕に当たり、これがハンドの反則と判定される。PKを獲得し、初戦の仙台大戦で2ゴールを挙げたMF20、江坂任(3年)がきっちり決めて75分を迎えたところで流通経済大が1点をリード。このまま終われない関西大も1人少ない状況で攻撃を組み立てるが、逃げ切りを図る流通経済大はブロックを作ってはね返す。時間は進み、終了のホイッスルがピッチに鳴り響いた。

「今日はPK戦まで行くつもりでいた」とは流通経済大の中野雄二監督の言葉。しかし、「ただ、完全に引いて守ろうという意識はなく、しっかり相手に対してアプローチし、その次のプレーで勝負することを徹底した」と話す。その結果が攻め込まれながらも最後の一线を越えさせないことにつながったのは確かだ。

関西大の島岡健太監督は「前半は目指すサッカーを選手がよく理解してプレーしていた。結果は負けだが、下を向くような内容ではなかった」と一定の手応えを口にした。だからこそ退場者が出たことが悔やまれる試合だった。

2013年8月13日(火) 18:45キックオフ  
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/740人

流通経済大	1	0-0 1-0	0	関西大
75分 江坂任		得点		(アシスト)

